

令和3年度 家庭教育オピニオンリーダー研修① 実施報告

実施日：令和3年8月25日（水）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、Zoomを活用したオンラインで実施しました。

○ 開講式

○ 説明「とちぎの家庭教育支援施策と家庭教育オピニオンリーダー」 栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 針谷 英子

まず前半は、近年の社会の変化に伴い生じてきた家庭教育・子育て上の課題や、それらの解決に向けた家庭教育支援の必要性等についての説明がありました。

後半は、本県の家庭教育支援施策に関する説明と、家庭教育オピニオンリーダーに関して修了者の活動についての紹介がありました。受講者は、当研修が昭和62年に始まり、その後研修を修了した方々が「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」を組織していること、また、各市町において地域に根ざした家庭教育を支援する活動を、継続して行っていること等を学びました。



○ 自己紹介・その他

研修全体の流れを運営担当から聞いた後、各教育事務所の担当職員を含む参加者全員が自己紹介を行いました。終始和やかな雰囲気の中で、受講者はそれぞれが研修へ参加した理由や意気込みなどについて話しました。今後の研修を共にする仲間として、相互理解を深めるきっかけとなった様子でした。

○ 講話「子育て家庭の現状とその支援に向けて」宇都宮共和大学子ども生活学部 准教授 星 順子 氏

まず初めに、家庭教育支援は、家庭（親）への支援を通して、「子どもの最善の利益」の実現を目指す営みである、との話がありました。続いて、現在の子育て家庭の現状として、現在表面化している主な課題（困難さ）とその実態、その背景にある様々な要素についての説明がありました。そして最後に、家庭教育支援の在り方として、政策動向やこれまでの効果的な取組の実態、さらに、今後発展が期待される取組、必要なスキル等についての説明がありました。

講話終了後の講師への質問や、グループごとの振り返りにおける発言、アンケートからは、受講者が講話を聞いてこれまでの自身の家庭教育支援に関連する取組を振り返り、深めるべき知識や高めたい技能を明らかにしたり、今後取り組んでいきたい家庭教育支援に関わる活動のイメージを思い描くことができたりした様子が伺えました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ 今回の研修会に参加させていただいて、時代の変化に伴った多様化する家庭環境に対して、地域全体で家庭教育を支えるといった言葉がとても印象的で納得できました。切れ目のない支援の重要性を私自身が必要としているし、周りにもたくさんいるのだと感じました。また、親になるための準備学習という部分に注目して、今後の活動へのヒントにしていきたいと思いました。
- ・ 子育て家庭の抱える問題や、現状を知ることができました。世の中の移り変わりや、コロナ禍の影響もあり、地域全体で支える家庭教育が更に必要になると思いました。この研修を通して、私も支える側の一員となれるよう、自分の資質を向上させていきたいと思います。
- ・ コロナ禍の中で、子育てにおける問題が、目まぐるしく変化している現実があることを知り、あらためて地域に求められていることを正しく理解していくことが大切だと感じました。最後の話し合いの中で、皆さんが「地域にあわせたニーズ」という言葉をおっしゃっていて、今回のキーワードのように感じました。
- ・ 実際に皆さんにお会いできないのは残念ですが、Zoomでの研修として十分機能しているのではないのでしょうか。コロナ禍の今は、感染リスクの観点から、このようなリモート研修が良いと思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp